



前後町長を表敬訪問したハッサン大使(左から3人目)ら

本町産米の海外輸出に向け

カタール駐日大使が本町を視察

カタールのハッサン・ビン・モハメド・ラフィー・アル・エマーディ駐日大使は3月20日、本町を訪れ、町内のほ場などを視察しました。カタールは、本町がブランド米「いなわしろ天のつぶ」を最初に輸出した国で、現在は国際情勢の変化により輸出が途絶えています。ハッサン大使は同日、町役場で前後公町長を表敬訪問し、「猪苗代産米の輸入を前向きに検討しています。カタールと猪苗代町の友好関係が深まることを期待します」と話しました。

霜の被害から農産物を守る

町防霜対策本部看板掲額式

農産物を霜の被害から守るため、関係機関と連携して農家への情報提供や対策技術の指導などを行う町防霜対策本部は3月26日、町農林課内に設置され、前後公町長と会津よつば農業協同組合六角一治あいづ東部営農経済センター長が役場正面玄関に看板を掲げました。前後町長は「県や関係機関と連携を図り迅速な対応をとっていききたい。関係機関の皆さんの適切な指導により被害の未然防止に協力をお願いします」とあいさつを述べました。



対策本部の看板を掲げる前後町長と六角センター長

町消防団の機械を整備

軽積載車と小型消防ポンプを更新

町から町消防団への消防機械交付式は3月17日、町役場で行われ、町消防団員や地区関係者ら約40人が出席しました。今回は、第2分団土田班の軽積載車1台と第1、第2分団の小型動力ポンプ3台が更新されました。式では、前後公町長が「消防機械を配備した周辺地域の安全・安心確保のため、さらなる訓練の実施と予防消防に努めてください」とあいさつを述べ、五十嵐幸夫消防団長に管轄を手渡しました。



土田班に配備された軽積載車

自衛隊入隊予定者を激励

町自衛隊協力会激励会

町内の自衛隊入隊予定者の激励会は3月17日、町役場で開かれ、町自衛隊協力会会長の前後公町長が令和3年度入隊予定の小板橋夢斗さん(見称=会津北嶺高卒)に激励金を手渡しました。前後町長が「古里を愛する心を忘れず、信頼される自衛官を目指して頑張ってください」と激励。小板橋さんは「小学校6年生の時から自衛隊に入隊するのが目標でした。家族に恩返しができるように頑張ります」と抱負を話しました。



前後町長から激励金を受けた小板橋さん(右から2人目)



協定書と覚書に署名した前後町長ら

ガーナと協力を誓い合う

ガーナパラリンピック事前キャンプ協定締結

町は3月19日、東京パラリンピックの事前キャンプに関する協定と受け入れ了解の覚書をガーナパラリンピック委員会と締結しました。締結式は東京都の在日ガーナ大使館でオンラインで行われ、ガーナ大使館では前後公町長、ガーナではガーナパラリンピック委員会のサムソン・ディーン委員長が協定書と覚書に署名しました。ガーナ大使館のフランク・オチュレ全権大使が立ち会い、関係者が今後の協力を誓い合いました。

この10年間を忘れない

写真家石井麻木さんが道の駅で写真展

写真家石井麻木さんの写真展「東日本大震災10年特別企画3.11からの手紙／音の声」は3月6日から31日まで、道の駅猪苗代で開かれました。震災以降の東北の人たちの姿や音楽イベント「風とロック」などに出演したアーティストを撮影した写真パネル35点が展示されました。石井さんは「福島の人たちは大きな家族のような存在です。震災後10年で一区切りではなく、これからも福島のことを伝えていきたいです」と話しました。



来場者と東北の10年間の歩みを振り返る石井さん(左)

震災犠牲者の冥福を祈る

東日本大震災10回忌慰霊法要

東日本大震災10回忌慰霊法要は3月11日、亀ヶ城公園内の鐘つき堂で執り行われ、東日本大震災の犠牲者を弔うとともに震災からの復興を祈りました。

法要には長照寺住職で町仏教協会会長の楠俊道住職をはじめ、町内の各寺の住職や檀家の代表者ら約20人が参列しました。僧侶らによる読経の後、参列者が東日本大震災の犠牲者の冥福と震災からの復興を祈って鐘を打ち鳴らしました。



犠牲者の冥福を祈り鐘を打つ参列者

優れた料理と産品を表彰

6次化コンテスト表彰式

「いな食6次化コンテスト2021」表彰式は3月22日、道の駅猪苗代で行われました。コンテストは、そば料理部門と産品部門の2部門で行われ、7組が出品しました。福島大学食農学類の熊谷武久教授ら審査員5人が実食審査などを行った結果、そば料理部門ではNPO法人猪苗代研究所の「いなわしろ冷麺(仮称)」、産品部門では麴屋商店の「あまざけぷりん」が最優秀賞に輝きました。



(左から)猪苗代研究所の西村和貴さん、二瓶尚之さん、麴屋商店の中澤悦子さん